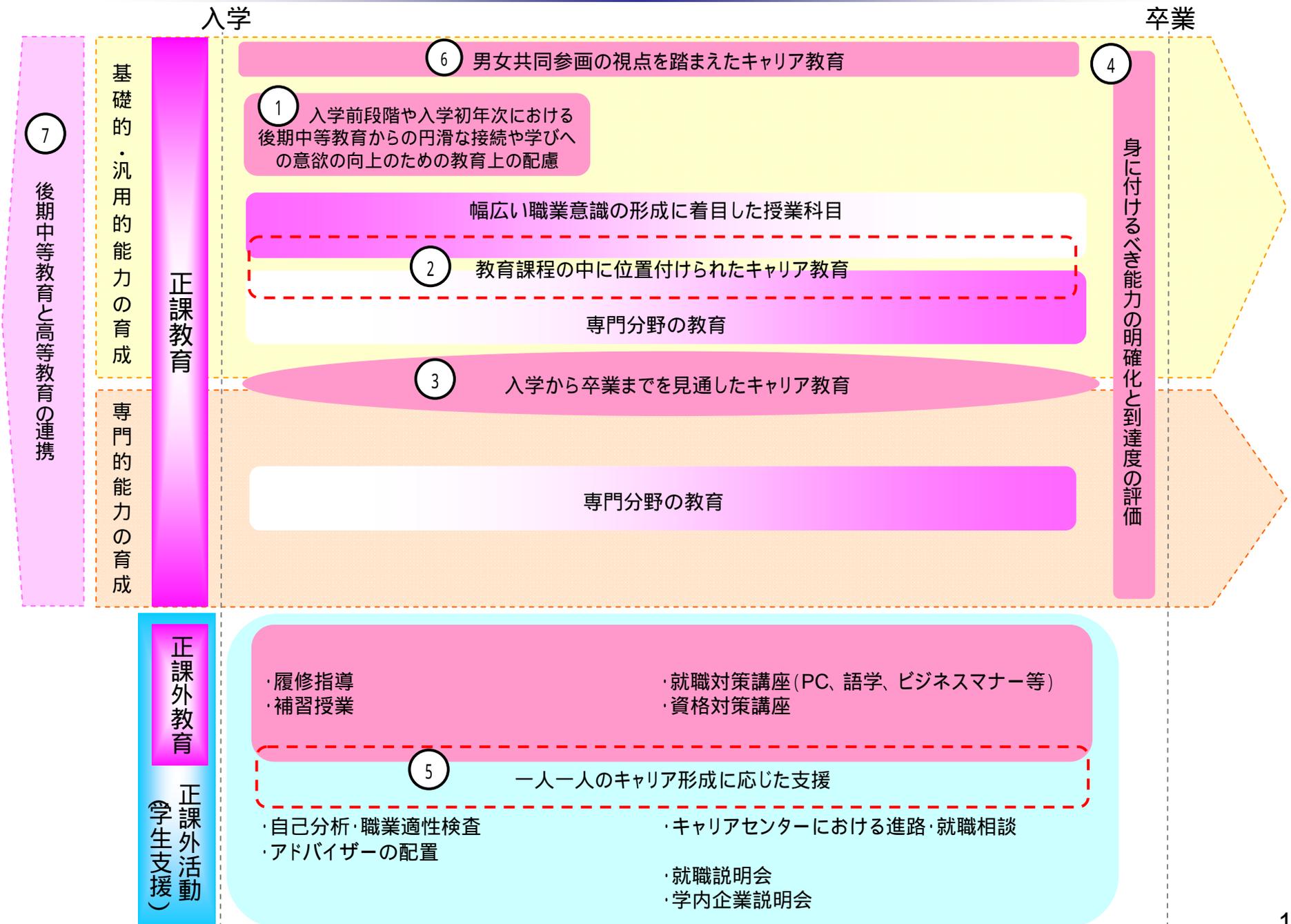
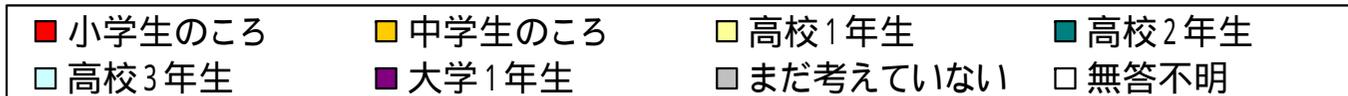
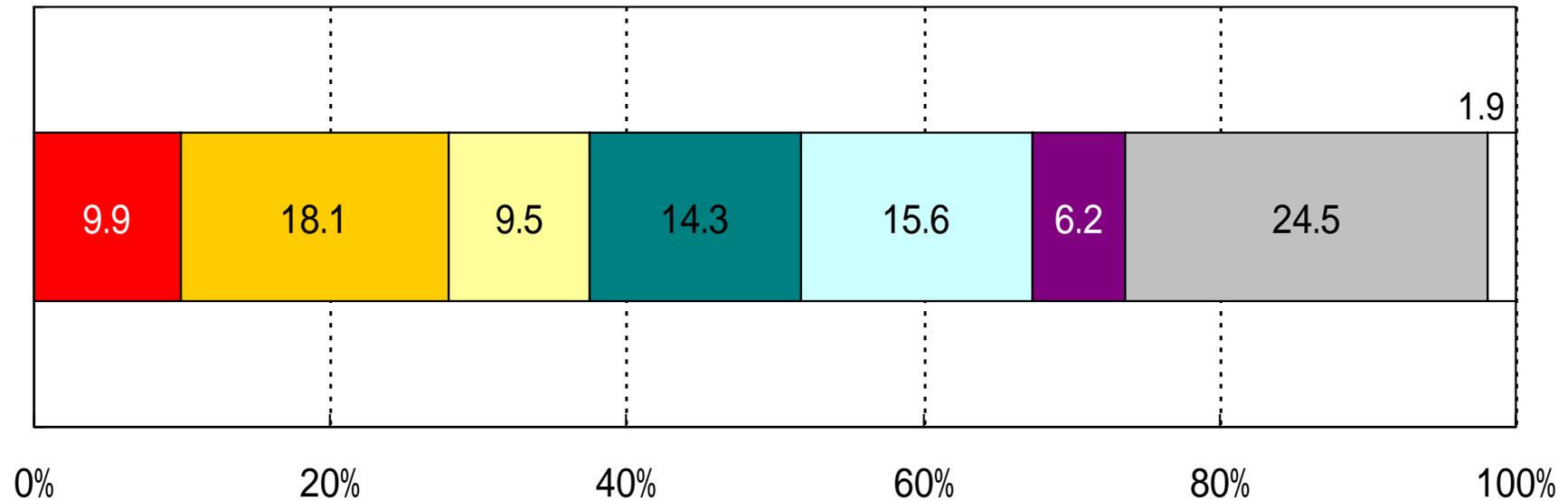


高等教育段階におけるキャリア教育の取組



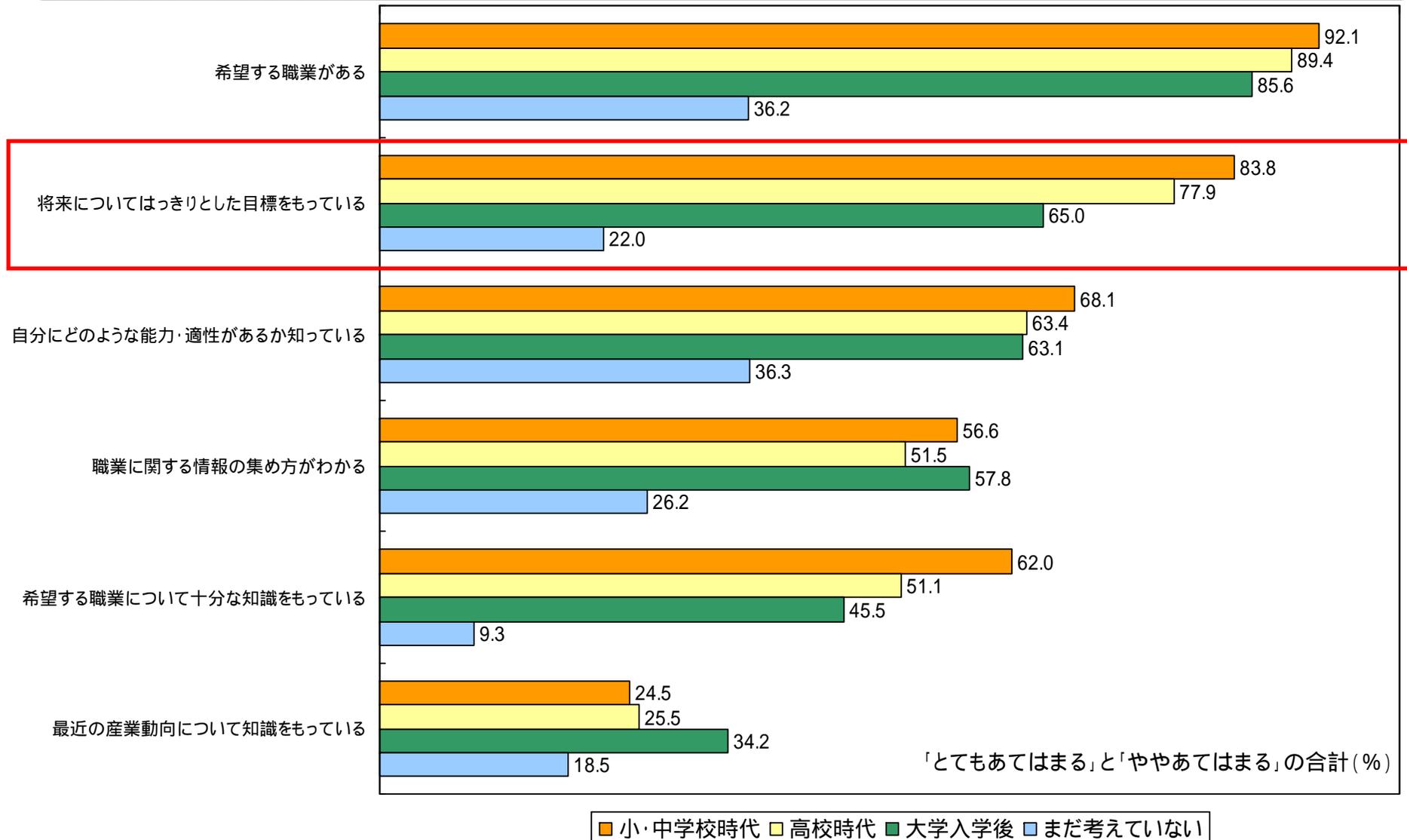
大学1年生が職業を意識した時期

大学1年生に、職業を意識した時期を聞いたところ、約31%が高等学校卒業以前に職業を意識したことがない(「まだ考えていない」または「大学1年生」と回答)。



大学生の職業に関する意識（職業を意識した時期別）

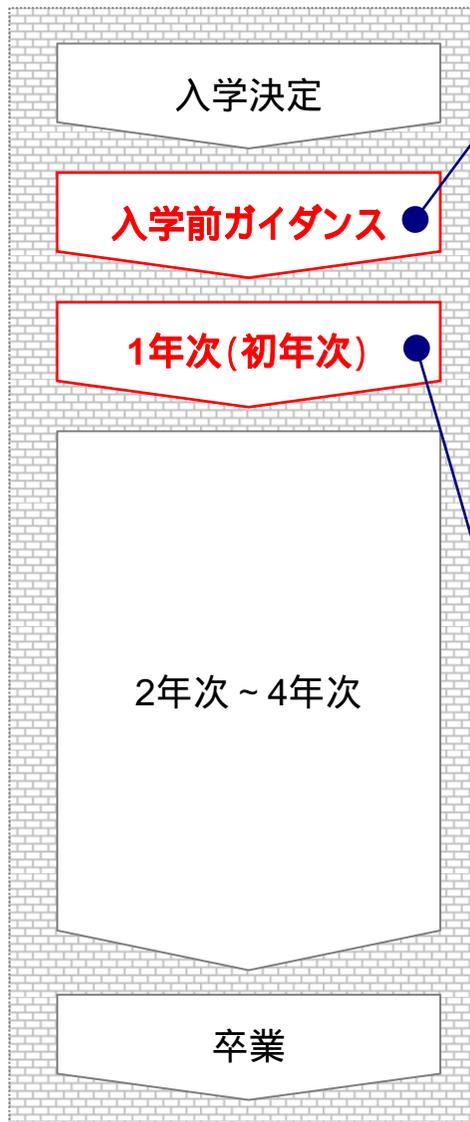
大学生に職業に関する意識を聞いたところ、高等学校卒業以前に職業を意識した者が、大学入学後に意識した者やまだ考えていない者に比べ、「将来についてはっきりとした目標をもっている」者の割合が高い。



【1】入学前段階や入学初年次における後期中等教育からの円滑な接続や学びへの意欲の向上のための教育上の配慮

入学初年次において学生自身に学生生活と卒業後の自分を考えさせ、高等教育機関で学ぶことの目的意識を持たせることなどにより、キャリア形成を行う基盤を培うための取組を実施。

(例) 嘉悦大学



大学からの一方向のガイダンスではなく、学生が能動的に参加する形式(体験型プログラム)を通して、学生生活を過ごすために必要な情報を伝達。

人間関係構築のきっかけ
必修「基礎ゼミ」のクラス単位での新入生・担当教員の自己紹介や、新入生がクラブ紹介ブースや専任教員ブースをラリー形式で個別に訪問し、先輩や教員と授業開始前に接する機会を提供。

キャリアデザインの意識付け(アカデミックライフデザイン、アカデミックキャリアデザイン)
学生生活全般についての重要事項を学ぶとともに、大学で過ごす4年間をイメージする。また、キャリア意識・開発の重要性を知り、カリキュラムやゼミナール、留学制度などについて理解を深めながら、大学生活について考えるきっかけを提供する。

1年次における通年必修の「基礎ゼミ」において、4年間の学生生活と、卒業後の自分を考え、大学で学ぶ目的意識や、大学生活における具体的な目標を学生に持たせる一連のプログラムを実施。

先輩や同級生とコミュニケーションすることを通じて、自らのキャリアデザインを具体的に描き、大学時代に挑戦すべきこと、習得すべきことを明確にしていく。

グループワークを効率的に推進していくための基礎的な技術(コーチング、ロジカルシンキング、ディベート、プレゼンテーションなど)を習得する。

グループワークとPBL(ex. 学園祭での模擬店出店)を組み合わせた教育活動を行うことによって、自らに不足している知識・スキルの認識や、2年次で移行する専門科目の学習に向け、大学時代に習得すべき知識・スキルを明確にする。

これからの大学生活で積みたい経験を具体的に記入する「未来履歴書」の作成等から、自身の人生経験を意識的に作りあげる「キャリアデザインの視点」を習得する。

【1】入学前段階や入学初年次における後期中等教育からの円滑な接続や学びへの意欲の向上のための教育上の配慮

入学者の学習意欲の醸成、学習習慣の確立のため、高大連携校の高校教員と組織した研究会を設置し、問題意識の共有と解決策の検討を行い、大学での学習にスムーズに移行できるよう入学前教育を実施。

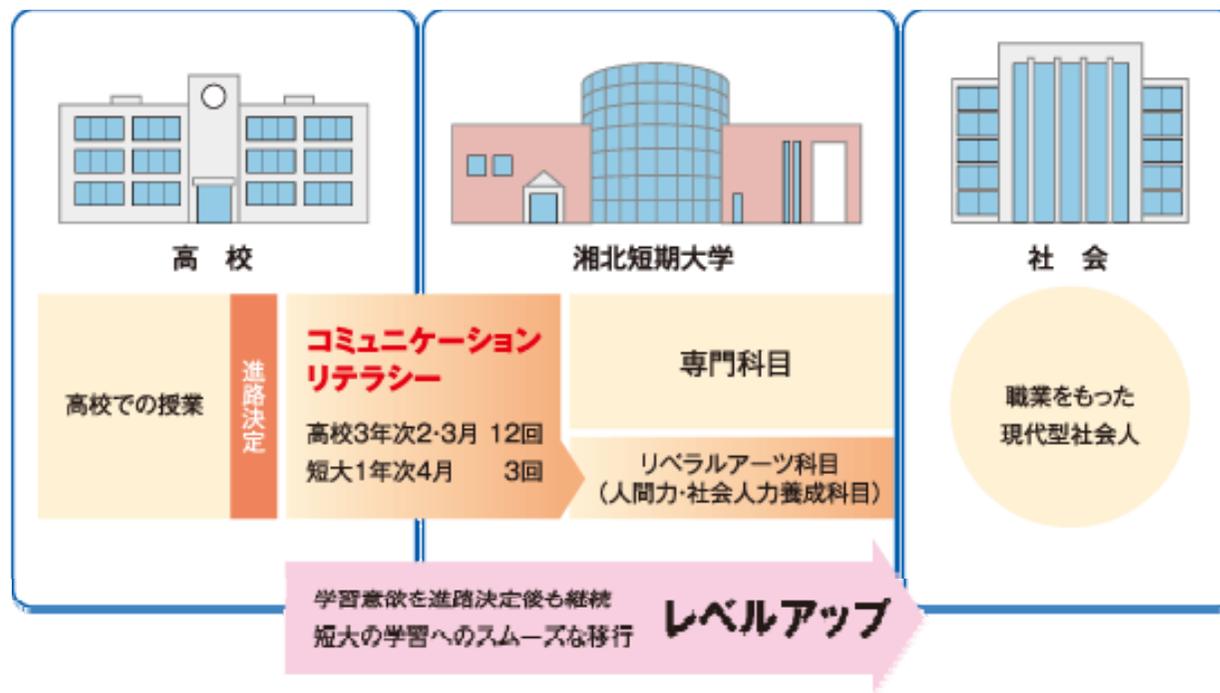
(例) 湘北短期大学

コミュニケーションリテラシーの開講

企業・高校教員に対するアンケートの結果も踏まえ、将来社会人・職業人として必要な能力として、「コミュニケーション能力」が学生に特に求められていると認識。

また、入学者の学力低下の背景として、大学入学時の学ぶ意欲、学ぶ習慣が希薄であるという課題認識。また、早期に進学を決定した高校生の学習意欲維持について、高校教員との問題意識を共有。

そこで、平成19年度から、学生が高い目標意識の下に学ぶための「動機付け」を行うとともに、将来社会人として仕事をする上でコミュニケーション能力が重要であることを理解するため、連携高校の推薦入試合格者を対象として、高校在学中に「コミュニケーションリテラシー」を開講している。

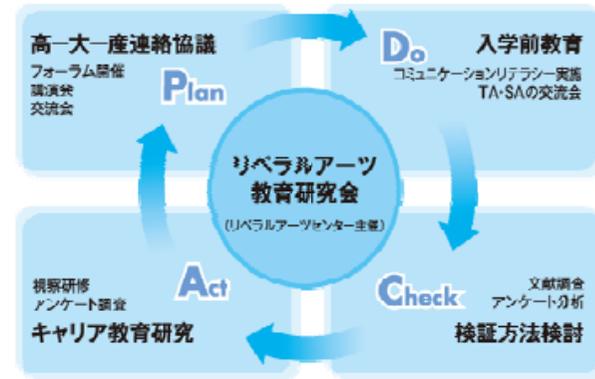


リベラルアーツ教育研究会の設置

平成18年度より、連携高校の教員及び大学の全学科からの教職員が参加する連携協議会を設置しており、高校教育の実情を深く理解した上で、短期大学教育を最適化する取組を実施。



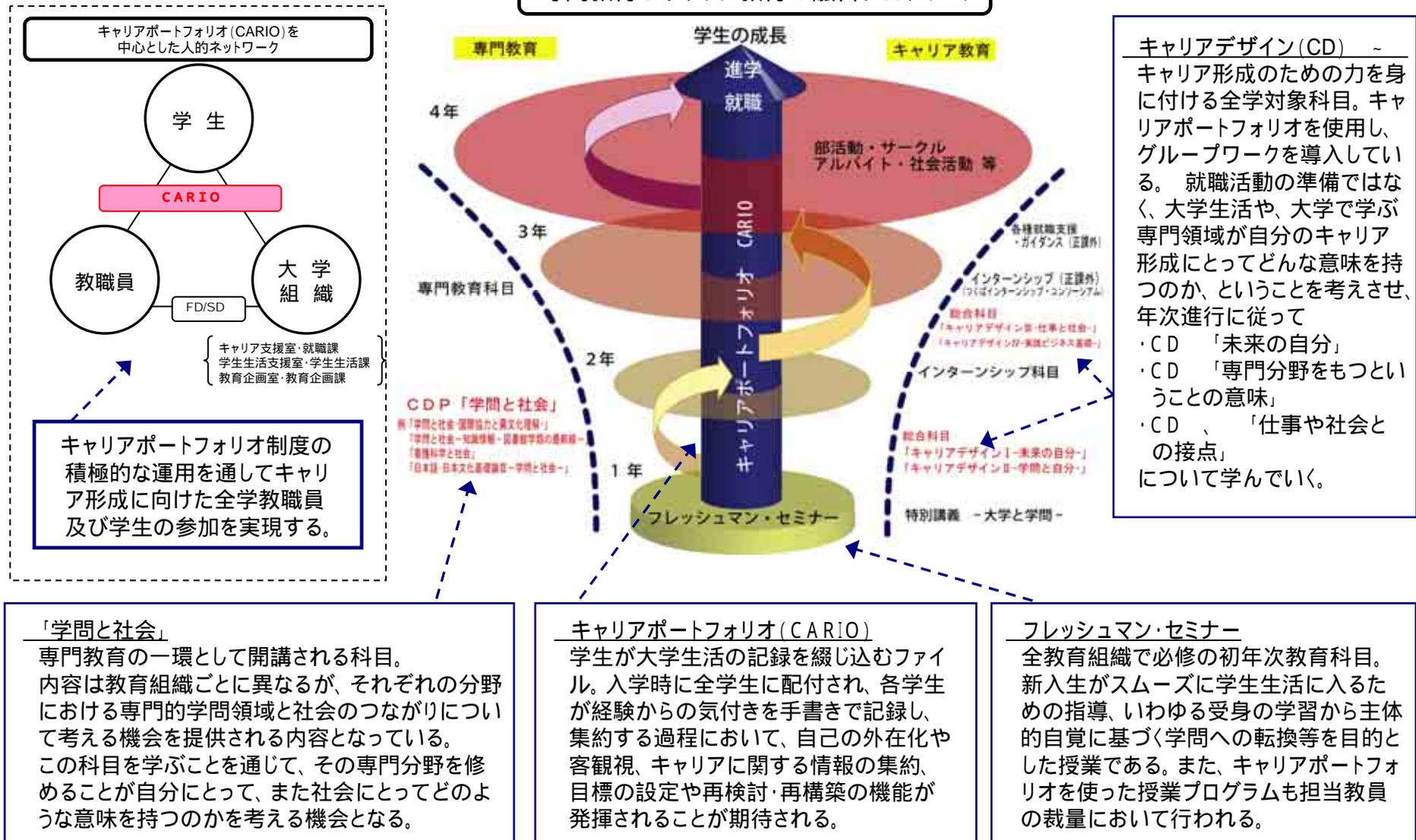
また、こうした取組も踏まえ、新たに企業人も含めたりベラルアーツ教育研究会活動を準備中。人材育成に対する要望や課題認識の共有等を行い、教育改善につなげていくための取組を行う。



【2】 教育過程の中に位置付けられたキャリア教育

教育課程全体において、専門教育とキャリア教育の融合を目指して、社会人・職業人への移行期としての、大学生生活を有意義に過ごすための各種プログラムを展開することを通じて、教職員・学生の人的ネットワークの拡充・活用を推進。

(例) 筑波大学



【3】 入学から卒業までを見通したキャリア教育

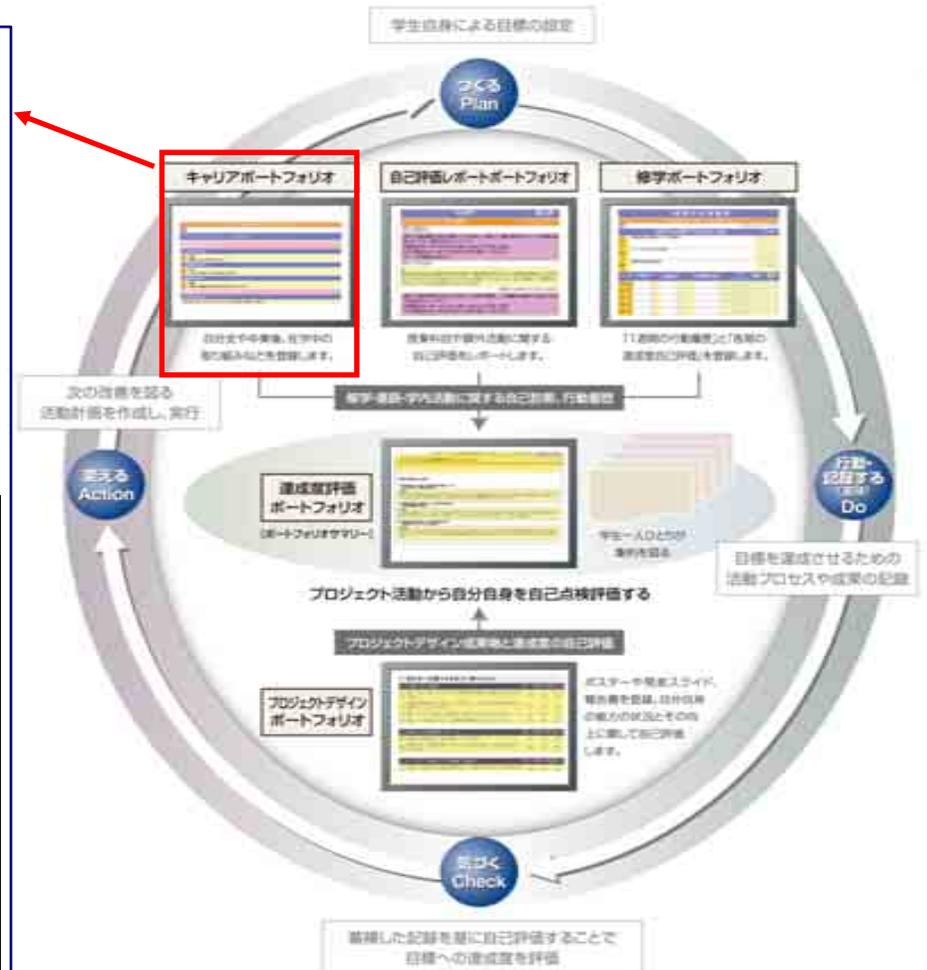
卒業後を見通したキャリアデザインに基づいたキャリア形成のため、入学時から各学年での学習成果を着実に積み上げることで、卒業後の進路実現と共に社会人・職業人として必要な能力を自ら培っていく取組を実施。

(例) 金沢工業大学

ポートフォリオシステムを活用して、正課内外における教育活動や、その達成度を記録し、自己点検評価を行う。また、自分の将来の目標設定と、その達成に向けた具体的な行動目標設定、行動目標とその結果の明確化によるキャリアデザインの自己管理等を行う取組を実施している。

キャリアポートフォリオは、卒業後を見据えて、1年次から自立・自立的に各自の可能性を広げる行動を開始することが求められること、一度描いたキャリアデザインは時間とともに変化し、人生の節目ごとに描き直す必要があることなどを念頭に設計されている。具体的には、社会に出た後も自己成長型のキャリアデザインとキャリア形成を進めることができるようにするため、自分史、自己実現目標などを記録するワークシートを用いて、随時それを各自の自己点検に活用することを習慣化するレベルで身に付けさせ、目標への接近度や達成度を確認しながら次の行動設計に反映させる力を育成する取組を行っている。

【キャリアポートフォリオ(ワークシート) イメージ図】



【3】 入学から卒業までを見通したキャリア教育

入学時から卒業を見通してキャリア形成を行い、各学年での学習成果を着実に積み上げることで、卒業後の目標に向けて社会人・職業人として必要な能力を自ら培っていく取組を実施。

(例) 阿南工業高等専門学校

【キャリアデザインワークブック 表紙、目次等(抜粋)】

低年次から卒業後のビジョンを開かせるため、教育課程早期からの職業指導推進プログラムを実施している。1～3年次での特別学級活動と、4年次における校外実習(インターンシップ)を有機的に結合させることによって、高専本科教育の早期段階から総合的にキャリア教育を推進し、確固たる職業観・倫理観を持たせることで、5年次の就職活動等につなげることを目的とした取組を実施している。

プログラムの中では、企業人等を招いたセミナー等の開催や、学校独自に教材(キャリアデザインワークブック)や教員向けの指導マニュアルを作成し、それに基づいた体系的なキャリア教育が行われている。

【職業指導推進プログラム 全体スケジュール】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生	エンジニアとは エンジニアの仕事について							どのように勉強すべきか? 資格取得について				
2年生	エンジニアに対する社会の要求 (公害・環境)							5年生の就職試験体験談 4年生の校外実習体験談				
3年生	本校卒業生の体験談							エンジニアに対する 社会の要求(企業倫理)				
4年生	校外実習の ガイダンス		実習期間および 発表準備				発表	目標設定	調査(企業研究)	自己分析	調査(企業研究)	面接訓練
5年生	就職活動期間						学生時代の総まとめ(卒業研究) 就職準備(スキルアップ)					

阿南高専生の
キャリアデザイン
ワークブック

阿南工業高等専門学校
キャリアデザイン課

はじめに・・・キャリアデザインってなに？

将来とんな仕事をしたいか？そのためには何を勉強すべきか？という計画し、目標を定めて実行していくことがキャリアデザインです。このワークブックはみなさんのキャリアデザインをお手伝いするアイテムのひとつです。このワークブックを従学年のロングホームルーム(学級活動)のキャリア教育(年4回、5年間では12回)の時に使用します。「キャリアワーク」の欄は担当の先生の指導にしたがって書き込んでください。最後のまとめ(4章)は4年生になる春休みに自分で書きこんでください。

「阿南高専生のキャリアデザインワークブック」の目次

1. 高専1年生のキャリアデザイン
 - 1-1. 高専生活を有意義なものにするために 3
 - 1-2. 社会に出て働くことの意義 4
 - 1-3. 企業と社会
 - 1-4. 高専で学びながら身につけたいマナー
高専1年生のキャリアデザインのまとめ
2. 高専2年生のキャリアデザイン
 - 2-1. 会社の組織とエンジニアの仕事
 - 2-2. 企業にとって好ましい人材とは
 - 2-3. 必要とされるコミュニケーション力
 - 2-4. 先輩(卒業生)の体験談学ぶ
高専2年生のキャリアデザインのまとめ
3. 高専3年生のキャリアデザイン
 - 3-1. 業界研究と企業研究
 - 3-2. 自分を知り、自分を知らせてもらう
 - 3-3. インターンシップ参加の目的と意義
 - 3-4. 教職・進学の流れ
高専3年生のキャリアデザインのまとめ
4. いままでのキャリアデザインのまとめ

1-2. 社会に出て働くことの意義

1-2-1. 働かないとどうなるか

学校を卒業して働かないとどうなるのでしょうか？江戸時代なら身分に応じた職業に強制的に就き、決まったラインの上で生活する事になります。自由はありませんが、不祥事を起こさない限り、平凡な人生をおくる事ができてしまう。しかし現代の私たちに、職業選択の自由が与えられますが、その代わりには職業に就いて働かなければ現金収入を名目的に「収入」を得ることができません。

現代社会においては、収入が得られないということは、生活できないということになります。今、自分は働かなくても生きていけると思っている人は、誰か(保護者)に養われているということを知らないで下さい。いつまでも養ってくれるような環境なら良いのですが、保護者が健在であるうちは働かなくても大丈夫ですが、それはいつまでも続きません。ユートと呼ばれる不労所得者が100万人いるといわれていますが、みなさんは社会に出て働き、自立する道を歩んでください。

考えてみよう：人が生きていくには衣食住のほかにも何にどんなお金が必要か？
光熱費、通信費、交際費、生命保険料、健康保険料、国民年金の掛け金、住民税、地産税(所得がある)、消費税などの各種間接税、自動車の維持費(修理費、ガソリン代、車検費用、高速道路の通行料など)。(国を借りた金、負債、住居費は衣食住に含んでおきます)

1-2-2. 働くことによって得られるもの

先ほど話しましたが、家族が大金持ちであんなに一生養って貰われるのであれば、職業を探さなくても生活はできますが、果たして充実した人生を歩むことができるでしょうか。人間は社会的な生き物です。やはり、職業に就いて社会の一員としての「居場所」を確保することで精神的な安定、地位や名誉と収入を得ることがあります。

社会に出て労働し、対価としての報酬を得るためには基本的に「他人のために」仕事をしないといけません。「自分のために」仕事をするとはわけが違います。自分のための仕事とは家事や趣味になるのです。社会に出ると、他人が納得する仕事ができるようになってはじめて報酬ももらえます。ただ、会社の組織が大きいと一人前に仕事ができるまでの勉強の期間に余裕があって半年前でも給料はもらえますが、会社が小さかったり、実力主義の人事システムだと、即戦力としての実力が問われます。そのような厳しい「社会」に、だれと比べられて生きていかなければならぬの、現代人の実情です。

社会人として数年生活し、忠実にすると家賃を持つ(つまり結婚する)こともあるでしょう。働くことによりある程度安定した収入がないことは家賃を持つことも不安です。結婚をして新しい人生を歩むということは具体的な経済問題を解決していくことでもあるのです。自分の家賃を持つということは自分の人生が未来に向かっていっていることを意味します。日本では「家賃を持つ」はじめて「一人前」といえることが言われますが、家賃を持った喜びが自覚と責任感につながり、さらなる仕事への情熱を生み出すのです。

学生時代が終わってもすぐに収入は得られません。就職して最初の給料日までは収入がないので、要注意です。この期間は本当に心細い感じでした。お金がなくなって本当に困ることを。

人生の成功を握るカギは次

- ・目標を定めること
- ・実行すること
- ・失敗してもあきらめないで

【4】身に付けるべき能力の明確化と到達度の評価

教育課程を編成・実施するにあたり、各授業科目及び教育課程全体を通じて学生にどのような能力をどの程度身に付けさせるかを明確化。

(例)東京女学館大学

社会で必要とされる基礎力として、「10の底力」を設定し、すべての授業科目でこれらのうちどの能力を育成できるかを明確にした教育を行う取組を実施している。

また、授業や各種行事において学生の「底力」を高めるため、効果的な方法を学ぶFD・SD体制を充実させ、学生1名に対して教員1名が履修計画や進路に関するアドバイスをを行うとともに、伸ばしたい「10の底力」がその学生のキャリアプランに合っているかどうか、キャリアカウンセラーが相談に乗る体制を構築している。

semester終了ごとに学生と教員それぞれが能力の到達度を評価し、レーダーチャートで示すことにより、学生は次のsemesterの履修の参考にする。卒業時には、4年間で10の能力の成長度を学生に提示する。

オーダーメイドのキャリア教育



【卒業成長値を高める10の底力】

	コミュニケーション能力		調査能力
	プレゼンテーション能力		IT能力
	ディスカッション能力		クリティカル思考
	国際感覚・多文化理解能力		コンセプチュアルスキル (問題発見・提案・実行力)
	外国語運用能力		自己理解能力

10の底力 マッピング表

科目	科目名	到達目標	10の底力	10の底力	10の底力	10の底力	10の底力	10の底力	10の底力	10の底力	10の底力
英語	英語	英語	コミュニケーション能力	国際感覚・多文化理解能力	外国語運用能力	調査能力	IT能力	クリティカル思考	コンセプチュアルスキル	自己理解能力	
英語	英語	英語	コミュニケーション能力	国際感覚・多文化理解能力	外国語運用能力	調査能力	IT能力	クリティカル思考	コンセプチュアルスキル	自己理解能力	
英語	英語	英語	コミュニケーション能力	国際感覚・多文化理解能力	外国語運用能力	調査能力	IT能力	クリティカル思考	コンセプチュアルスキル	自己理解能力	
英語	英語	英語	コミュニケーション能力	国際感覚・多文化理解能力	外国語運用能力	調査能力	IT能力	クリティカル思考	コンセプチュアルスキル	自己理解能力	
英語	英語	英語	コミュニケーション能力	国際感覚・多文化理解能力	外国語運用能力	調査能力	IT能力	クリティカル思考	コンセプチュアルスキル	自己理解能力	
英語	英語	英語	コミュニケーション能力	国際感覚・多文化理解能力	外国語運用能力	調査能力	IT能力	クリティカル思考	コンセプチュアルスキル	自己理解能力	
英語	英語	英語	コミュニケーション能力	国際感覚・多文化理解能力	外国語運用能力	調査能力	IT能力	クリティカル思考	コンセプチュアルスキル	自己理解能力	
英語	英語	英語	コミュニケーション能力	国際感覚・多文化理解能力	外国語運用能力	調査能力	IT能力	クリティカル思考	コンセプチュアルスキル	自己理解能力	
英語	英語	英語	コミュニケーション能力	国際感覚・多文化理解能力	外国語運用能力	調査能力	IT能力	クリティカル思考	コンセプチュアルスキル	自己理解能力	
英語	英語	英語	コミュニケーション能力	国際感覚・多文化理解能力	外国語運用能力	調査能力	IT能力	クリティカル思考	コンセプチュアルスキル	自己理解能力	

シラバス

シラバスキーワード検索:シラバスを10の底力とキーワードにより検索できます。

10の底力

コミュニケーション能力
 プレゼンテーション能力
 ディスカッション能力
 国際感覚・多文化理解能力
 外国語運用能力
 調査能力
 IT能力
 クリティカル思考
 コンセプチュアルスキル(問題発見・提案・実行力)
 自己理解能力

全てから 検索

	コミュニケーション能力		プレゼンテーション能力		ディスカッション能力
	国際感覚・多文化理解能力		外国語運用能力		調査能力
	IT能力		クリティカル思考		コンセプチュアルスキル
	自己理解能力				

各授業科目で育成される「10の底力」は、マッピング表において学生に示されている。シラバスについても、能力に対応した授業科目の検索が可能となるよう工夫がなされている。

【4】身に付けるべき能力の明確化と到達度の評価

教育課程を編成・実施するにあたり、各授業科目及び教育課程全体を通じて学生にどのような能力をどの程度身に付けさせるかを明確化。

(例)三重大学

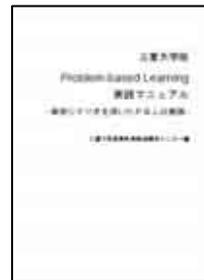
学生の「4つの力」を育成することを教育目標として掲げ、その達成に向けた体制整備及び取組が教養・専門教育を通して実施されている。

【具体的な取組等】

【三重大学「4つの力」】

(1)PBL: (H17年度～)

問題発見解決型学習、能動的学習、グループ学習、形成的評価などを特徴とする授業スタイルは、4つの力の育成に効果的かつ各授業における学習内容を変更することなく導入できることから、PBLを全学的に展開することを目指したFDや支援プログラム等を継続的に実施。



【「4つの力」及びその下位項目(構成要素)】

- ・「感じる力」:
感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識
- ・「考える力」:
幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、批判的思考力、課題探求力、問題解決力
- ・「コミュニケーション力」:
情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、実践外国語力
- ・「生きる力」:
感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

(第2期中期目標・中期計画(案)より抜粋)

「4つの力」は、「学士力」等の社会から求められている力との整合性も考慮され、知識・理解だけでなく、汎用的技能や態度・志向性とともに社会的能力等の総合的な能力も含むものとして設定されている。

(2)eラーニング: (H18年度～)

授業の効率化、学生間・学生と教員間のコミュニケーションの促進、ひいては「4つの力」の育成にも効果的であるオープンソースの学習管理支援システムMoodleをカスタマイズし(「三重大学Moodle」)、全学的に展開することを目指したFD等を継続的に実施。



(3)初年次教育科目: (H21年度～)

三重大学の教育目標の理解、学習の動機付け、学習スキルや社会的スキルの獲得などを目的として、全学を対象に「4つの力 スタートアップセミナー」を開発。全体を通してPBLが導入されるとともに、各回の授業では、プロジェクトと関連付けて、「4つの力」に関わるテーマの講義・討論及びリフレクションシートやeポートフォリオを活用した修得能力の省察を実施。

(4)修学達成度評価システム: (H17年度～)

アンケート調査の回答に基づいて、学生の「4つの力」の評価値を算出する評価システムを開発し、学習の省察(学生)及び教育の達成度評価・改善(大学)に活用する取組を継続的に実施。



【5】 一人一人のキャリア形成に応じた支援

学生支援など正課外活動を通じて、一人一人のキャリア形成に応じた個別支援を行う取組。入学段階から学生一人一人のキャリア形成を支援するため、アドバイザーの配置やキャリアカウンセリングを行う取組を実施。

(例) 金城学院大学

全教員によるアドバイザー制の導入

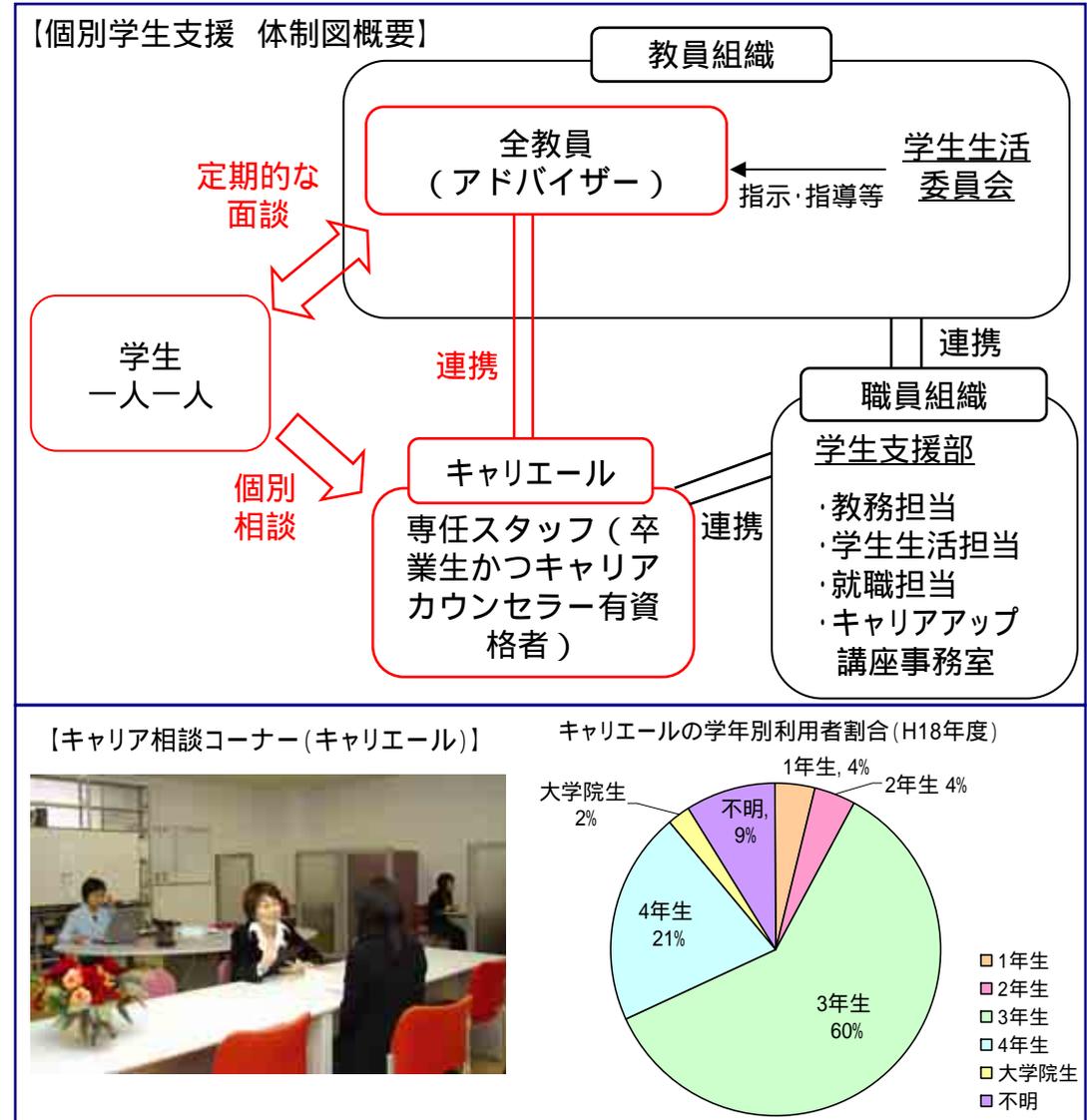
教員が学生と定期的に面談し、学習面、学生生活面等を個別に支援するアドバイザー制をすべての学年において導入している。アドバイザーは担当する学生と定期的に面談し、学習面、学生生活面のみならず、キャリア面での指導にもあたる。例えば、個別の学生の状況に応じ、キャリア相談コーナーの利用を薦めるなど、学内の関係部局との連携の起点にもなっており、学内の関係部局と連携して、きめ細やかな支援を実施する体制を整えている。

キャリア相談コーナー「キャリエール」の設置

キャリアカウンセラーや専門分野での職務経験のあるスタッフ等の専任担当者が常時配置され、入学後の自己分析から職業選択・就職活動まで、キャリア形成全般にわたる相談が可能な相談コーナー「キャリエール」が開設されており、学生は個別にカウンセリングを受けることができる。キャリエールのスタッフは、3年生全員を対象とした個別面接とグループ面接を行うなど、個別カウンセリング以外にも学生への支援を行う機会を設けている。

< 主な相談内容 >

- ・将来のために何をしたらいいのかわからない
- ・自分に向いている職業が知りたい
- ・夢はあるが、実現は可能だろうか
- ・大学院に進学すべきか、就職すべきか迷っている
- ・なかなか内定を得られず自信をなくしている
- ・面接でうまく自己アピールできない
- ・自分の希望進路を家族に反対されている など



参考URL: <http://www.kinjo-u.ac.jp/gp/>

【5】 一人一人のキャリア形成に応じた支援

学生支援など正課外活動を通じて、一人一人のキャリア形成に応じた個別支援を行う取組。入学段階から学生一人一人のキャリア形成を支援するため、担任の配置やキャリアカウンセリングを行う取組を実施。

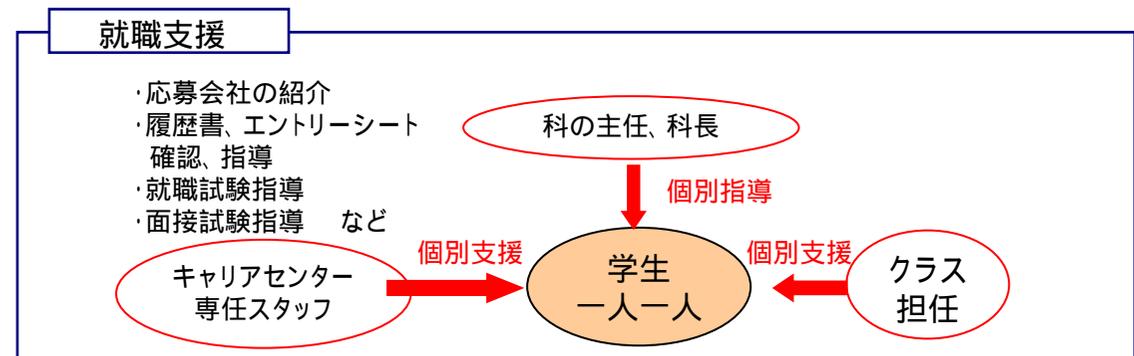
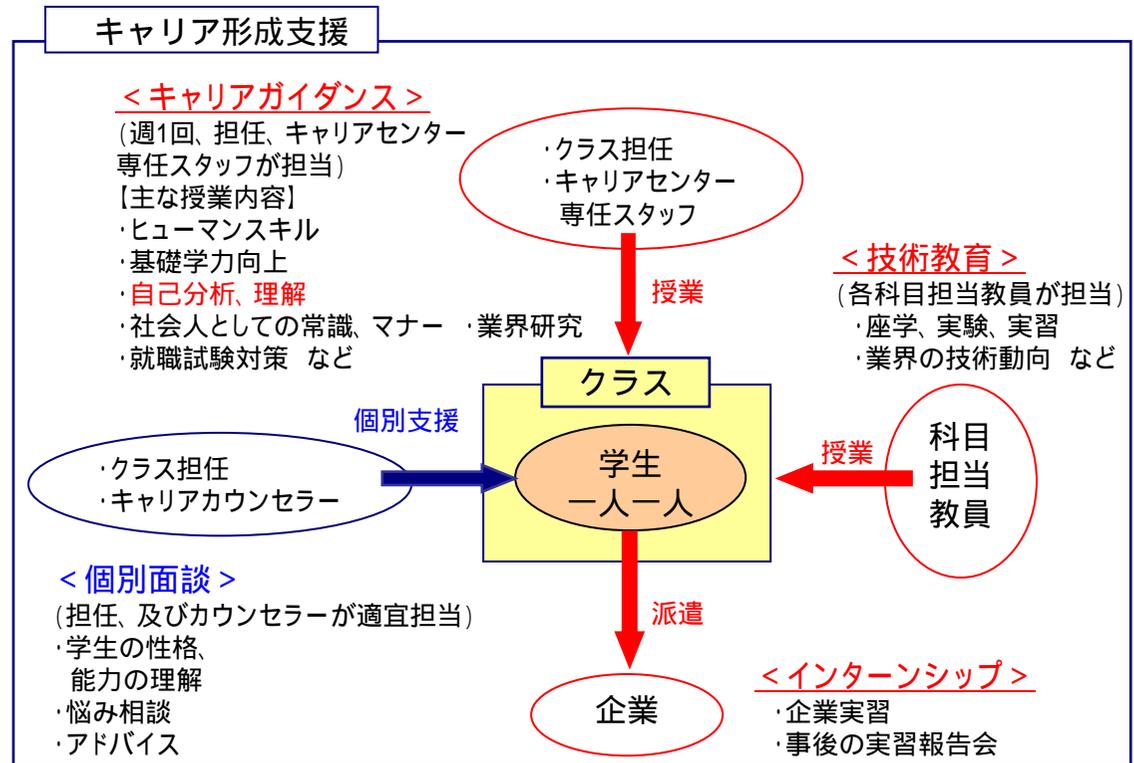
(例) 名古屋工学院専門学校

一つの専門分野を捉えても、対応する業種・職種は様々であり、学生の適性、希望する業種・職種、技術力は一人一人異なることを踏まえ、クラス担任とキャリアセンターの専任スタッフが協働して、授業「キャリアガイダンス」及び学生一人一人に対する個別指導を行っている。

授業「キャリアガイダンス」では、自己理解や自己分析に重点を置きつつ、ヒューマンスキル等の向上を目指した授業が行われ、キャリア形成・就職活動に向けて分野を問わず必要な能力の育成が目指されている。

また、担任の教員との毎月の個別面談や日々のコミュニケーションの中では、学生の考えや性格、能力に応じたアドバイスが行われており、学生一人一人に合った業種・職種の理解の促進や、将来に向けて必要な技術の習得及び資格取得に向けての動機付けなどの就職支援、生活指導や学習指導、悩み相談にも個別に対応し、必要に応じて心理士によるカウンセリングも行っている。

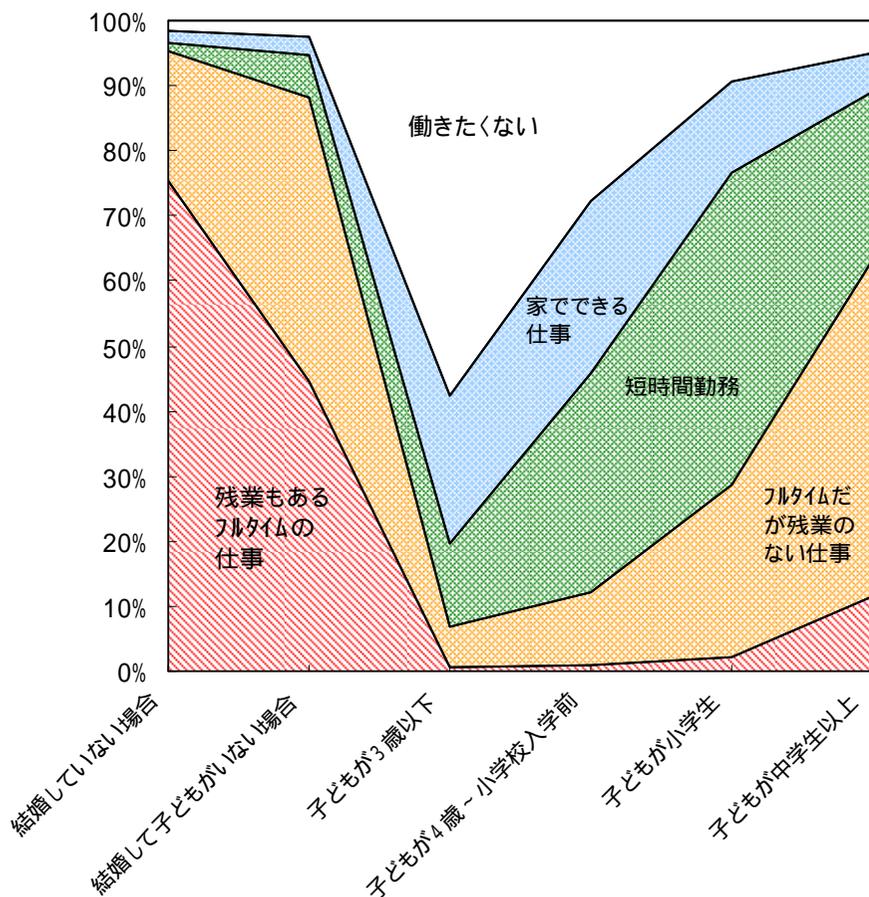
また、就職に際しては、担任及びキャリアセンターの専任スタッフが、各学生に合う応募先の情報提供、応募書類の書き方、面接試験対応など、幅広く相談を受ける体制を整え、学生一人一人に合う業種・職種・会社の紹介を行っている。



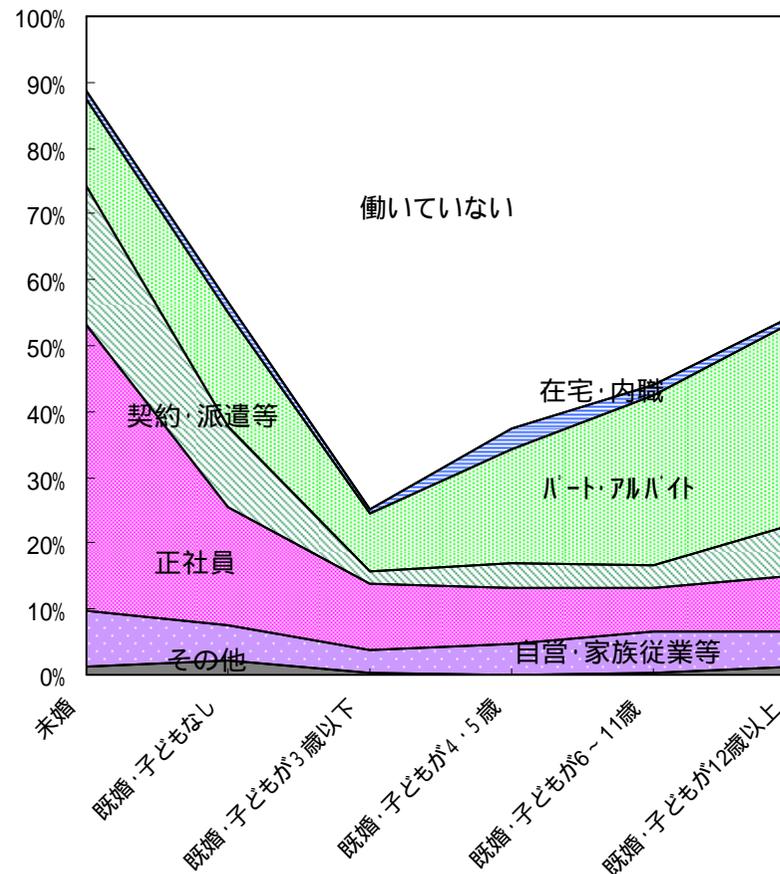
女性のキャリア関連資料

女性のライフステージの変化に応じた働き方の希望は、働き方の現状との乖離があり、子どもが大きくなるにつれて就業希望が増えても希望する形で再就職できていない状況が伺える。

ライフステージの変化に応じた働き方の希望



ライフステージ別 働き方の現状



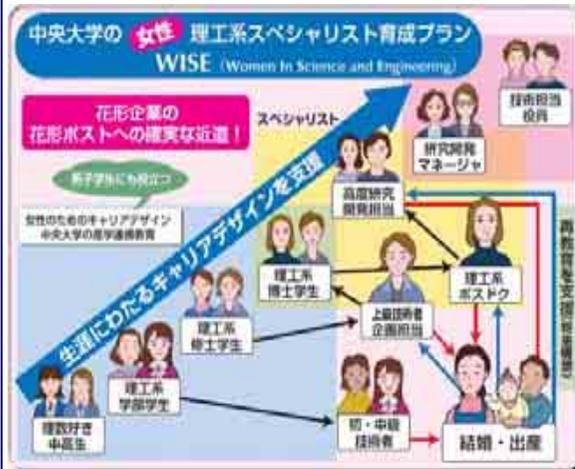
資料：内閣府男女共同参画局「女性のライフプランニング支援に関する調査報告書」(平成19年3月)
 注：「自営・家族従業等」には、「自ら起業・自営業」、「自営の家族従事者」を含む。「契約・派遣等」には、「有期契約社員」、「嘱託社員」、「派遣社員」を含む。

【6】女性の多様なキャリアを意識した取組

女性の多様なキャリアを意識したキャリア教育や、卒業生等の社会で活躍する女性に接する機会を設けるなどの取組を、正課内外において実施。

(例) 中央大学

【WISE Chuo 概要図】



正課内の取組:

企業で活躍する女性研究者・技術者を講師として招き、学部1～3年次の女子学生を主たる対象に、少人数のセミナー形式で、様々な研究開発事例や技術課題の取組を紹介する授業を行っている。こういった取組の紹介を通じて、大学で学ぶ科学技術の基礎と産業界でのその応用の関係を認識させるとともに、女性研究者・技術者に期待される役割を認識させる。

このような具体的事例を題材とした課題演習やPBLに取り組むことにより、学生がより具体的に、科学技術の基礎の理解とその産業応用との関係を理解するとともに、ロールモデルとなる女性との身近で密な交流を通して、学生が自分自身のキャリアを意識した積極的なキャリア形成を行い、専門家への志向を強化する取組を行っている。

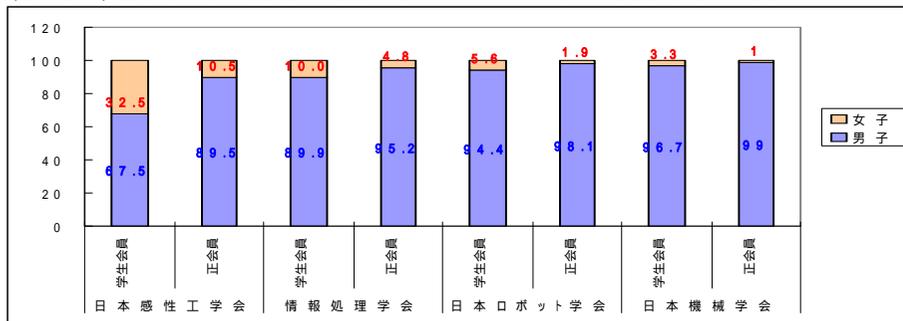
正課外の取組:

本学の卒業生を含む、産業界で活躍している若手・中堅・ベテランの各層からの女性研究者・技術者を招いた講演会や、企業(研究開発の現場)の見学会を開催し、女性研究者・技術者としての仕事・結婚・出産・育児休暇後の仕事の継続方法等、様々なライフステージについての理解も深めつつ、各自のキャリアプランの設計方法について学ぶ取組を行っている。

男子学生と学ぶ男女共同参画:

男子学生にも、このようなロールモデルとなる女性からの講義や交流を通じて、女性研究者・技術者に期待される役割や、女性が様々なライフステージで能力を発揮できるようにするために、男性が果たすべき役割を、学生の間から理解させている。

(参考1) 感性産業・情報通信産業における男女共同参画の現状



【図】学会を構成する学生・技術者・研究者の男女構成比

(各学会より資料提供)

女性の活躍が特に期待されている感性産業分野・日本感性工学会であっても、各学会正会員数に対する女性の比率は高くはない。学生(大学院生を含む)時代には当該分野の学習をしておきながら、正会員(研究開発の仕事に従事しているものと考えられる)になる割合が低いことから、職業としては研究開発職に就かない女子学生の比率が高いといえる。

(参考2) 情報通信産業における女性専門職の採用割合(実績)と採用側の希望

技術系女性採用者比率 (%)	採用側の希望		
	2007年	2008年	2009年
A社	27.5	36.2	37.6
B社	11.5	14.5	14.7
C社	10.2	9.7	10.9

【表】技術系女性採用者比率(データは協力企業からの情報に基づく)

【企業からのコメント】

「(性別に関係なく)優秀な学生を採用する」のが目的なので、「女性の採用目標」は設定していないが、結果的に技術系女性の採用比率が伸びている。

女性比率についてはもう少しアップさせたいと考えているが、応募してくる技術系女性の人数そのものが少ないこともあり、なかなか思うようには向上していない。

参考URL: <http://www.hm.indsys.chuo-u.ac.jp/girls/index.html> 14

【6】女性の多様なキャリアを意識した取組

女性の多様なキャリアを意識したキャリア教育や、卒業生等の社会で活躍する女性に接する機会を設けるなどの取組を、正課内外において実施。

(例)福岡女子大学

専門教育も含めて、大学の4年間の学習を、女子高度教養教育として構築する改革の中で、女子学生の「キャリア(人生)形成」と「男女共同参画社会の実現」を目指す取組を行っている。

具体的には、社会の中で女性が置かれている状況の理解のための授業や、女性の多様なキャリアを意識させるための授業科目(「女性学・ジェンダー論」等)を開設する取組を行っているほか、現代社会で活躍する女性に求められる基礎力を養成する女子専門の高等教育機関として、女子学生のキャリア意識・ジェンダー意識の向上、知的実践能力の向上、実践的コミュニケーション能力の向上を目指す「女子高度教養教育」の実現を図るなど、社会人・職業人としての自立に向けた能力育成を重視し、大学教育の中に位置付ける取組を行っている。

<具体的な取組例>

職業キャリア導入教育科目の「人生・職業・社会」、「キャリアデザイン」において、授業方法を工夫し、学生の意識と能力の向上に努めている。

「人生・職業・社会」(1年次前期・後期)

人生・職業・社会の現実を知ること及びそれに自分がどう関わっていくかを考えることを目的とした授業。

予めウェブ上の講義ビデオの内容に関する400字の作文を書いて授業に臨み、授業では各自の作文を基に、3人組での討論(三角(参画)討論)及び全体討論を行う。

「キャリア・デザイン」(2年次前期・後期)

ゲストスピーカーとして前期は卒業生、後期は卒業生に限らず社会で活躍する女性を講師として招き、講師からの講話及び学生と講師との対話を行う。教員は授業のコーディネート役として参加する。

対話後に学生は講師への「お礼の手紙」を書く。

男女共同参画社会をめざすキャリア教育

福女CEプログラム



福岡女子大学の特色

あらゆる機会を捉えてキャリア教育を行う。

学問キャリア導入教育と職業キャリア導入教育を学生教育の両輪とする。

読み書き討論能力を重視し養成する。

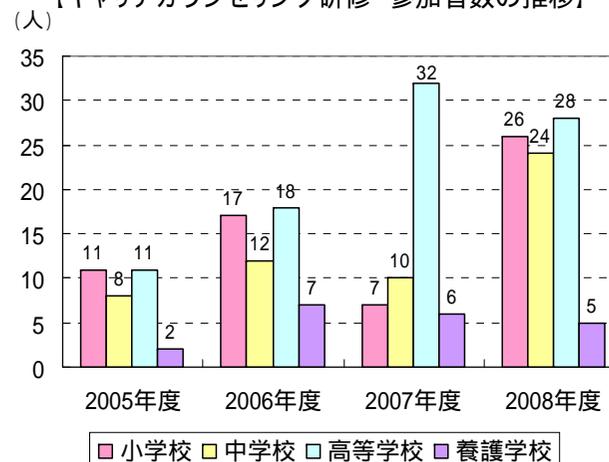
【7】 後期中等教育と高等教育の連携

高等教育機関が有するリソースを活用して、後期中等教育の充実に資する取組や、高等学校が専修学校と連携して効果的なキャリア教育を促進する取組。

(例) 関西大学

キャリア教育の取組は大学においてのみ行われるものではなく、小学校時代から発達段階に応じて取組を積み重ねることが必要という認識の下、キャリア教育の観点から初等中等教育と高等教育との連携を促進する取組を行っている。
 具体的には、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会と連携し、小・中・高等学校教員を対象とした「キャリア教育入門 - キャリアカウンセリング研修 -」を平成17年度から開催している。
 研修の対象を教員とすることにより、その背後に存在する大多数の児童・生徒に働きかけられること、また、中学校・高等学校の教員に対しては、卒業生のフォローアップという意味での有効性が期待される。
 研修プログラムには、キャリア教育の必要性やその実践方法、キャリアカウンセリングを用いた生徒・児童への個別的な対応方法、大学におけるキャリア形成支援の実情といった内容について講義と実習を交えて実施している。

【キャリアカウンセリング研修 参加者数の推移】



(例) 大阪府の取組

大阪府では、高等学校のキャリア教育・職業教育の充実に向けた取組(大阪版「職業アセスメント・プログラム」)の実施に当たり、自治体・教育委員会・専修学校団体、民間団体の連携の下、専修学校のリソース(教職以外の職業経験を持つ社会人、業界で使用される設備、就職支援のノウハウなど)を活用した公立・私立の高校1年生対象の事業が進められている。

具体的には、自己診断テストの実施、ワークショップにおける職業人との交流、専修学校における職業体験学習等の機会を体系的に提供することなどにより、高校生が多様な進路の中から自分の興味や資質、適性に基づく進路選択を行うことができるよう支援を行っている。
 高校側としては、提供することが困難または調整が大変な点について専修学校が持つリソースを活用した教育ができ、また、専修学校側としては、職業意識の高い生徒の入学が期待される等、連携によるメリットが生まれてきている。

大阪版「職業アセスメント・プログラム」の対象と目標

事業の対象

モデル高校10校(府立高校、私立高校)
 の高校1年生(約2,600名)

事業の目標

このプログラムを通じて、生徒が自己理解、自己肯定感、主体性、社会とのつながりへの意識、勉学等の意欲、などを高めること。

参考URL:

<http://www.osaka-senkaku.or.jp/education/index.html>

高等専門学校卒業生の資質・能力に対する評価

「高専卒業生 = 専門知識がある」という評価

(企業アンケートから)

期待、評価ともに専門知識がもっとも高く、企業の求めに応じた専門性のある人材を供給できていると言える。

責任感についても、評価、期待ともに高い。コンピュータ活用能力や誠実さ、論理的思考力は、期待以上の評価を得ていると見ることができる。

逆に、コミュニケーション力は期待に比べて評価がかなり低いと言わねばならない。

企業規模別では、中小・中堅企業は、高専卒業生に「専門知識」を期待しているが、大企業では「コミュニケーション力」を最も期待している。

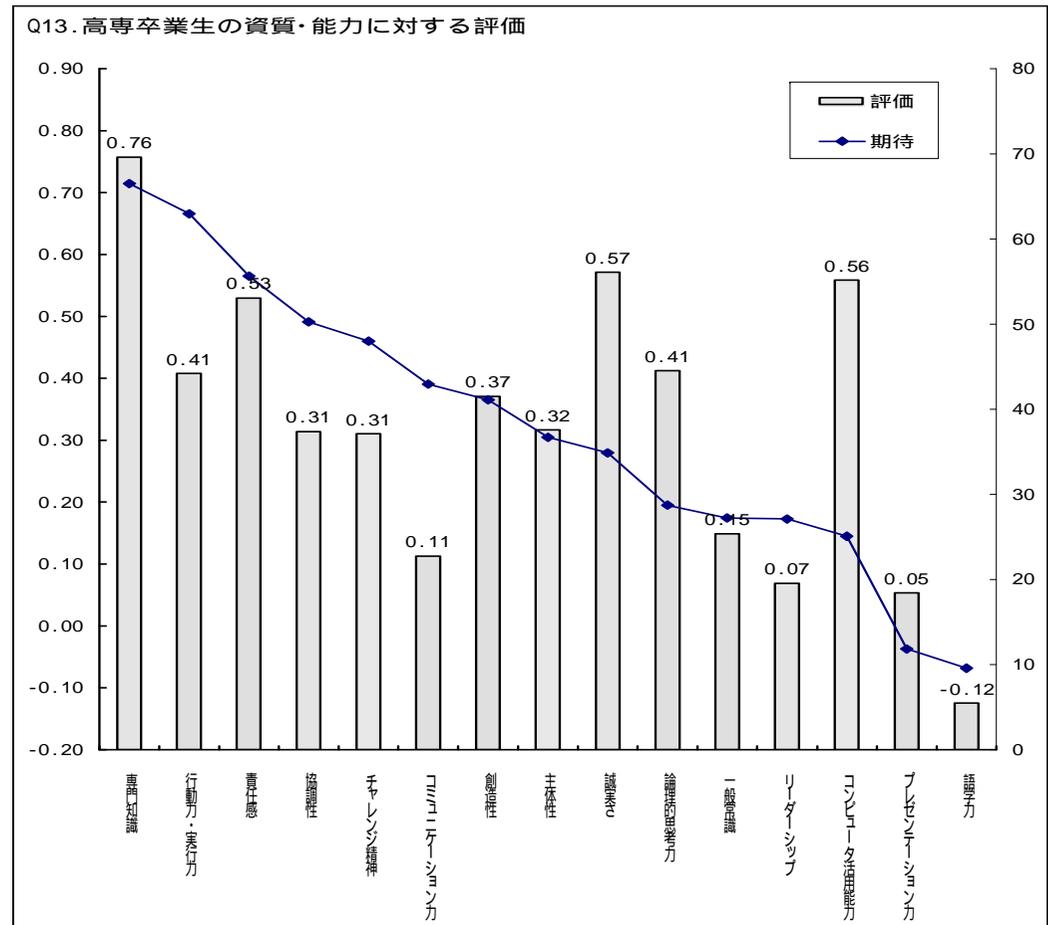
(卒業生アンケートから)

回答者全体では、「理系一般科目」および「専門科目の講義」「専門科目の実験」に関する評価が高い。「大変役立っている」「やや役立っている」を合わせた肯定的な意見は、「理系一般科目」が69.7%、「専門科目の実験」が64.9%、「専門科目の講義」が61.0%となっている。

また、「一般教養・知識」も55.8%、「論理的思考」も54.3%と高く評価されている。

一方、卒業生からの評価が最も低かったのが、「語学力(英語)」であり、肯定的な意見20.7%なのに対して、否定的な意見(「全く役立っていない」と「あまり役立っていない」の合計)が48.5%と、肯定的意見を上回っている。

それ以外にも、「対人交渉力」「プレゼンテーション能力」といったヒューマンスキルの育成に関する項目で評価も低い。



【調査名】『高等専門学校のあり方に関する調査』（平成18年3月独立行政法人国立高等専門学校機構）

【調査実施】みずほ情報総研株式会社 戦略コンサルティング部

【調査概要】

1) 企業人事担当者アンケート調査（郵送調査）

概要：高専採用状況、高専卒業生評価、高専教育プログラムへの要望等について調査を実施。

回答数：3,232件（回答率22.1%）

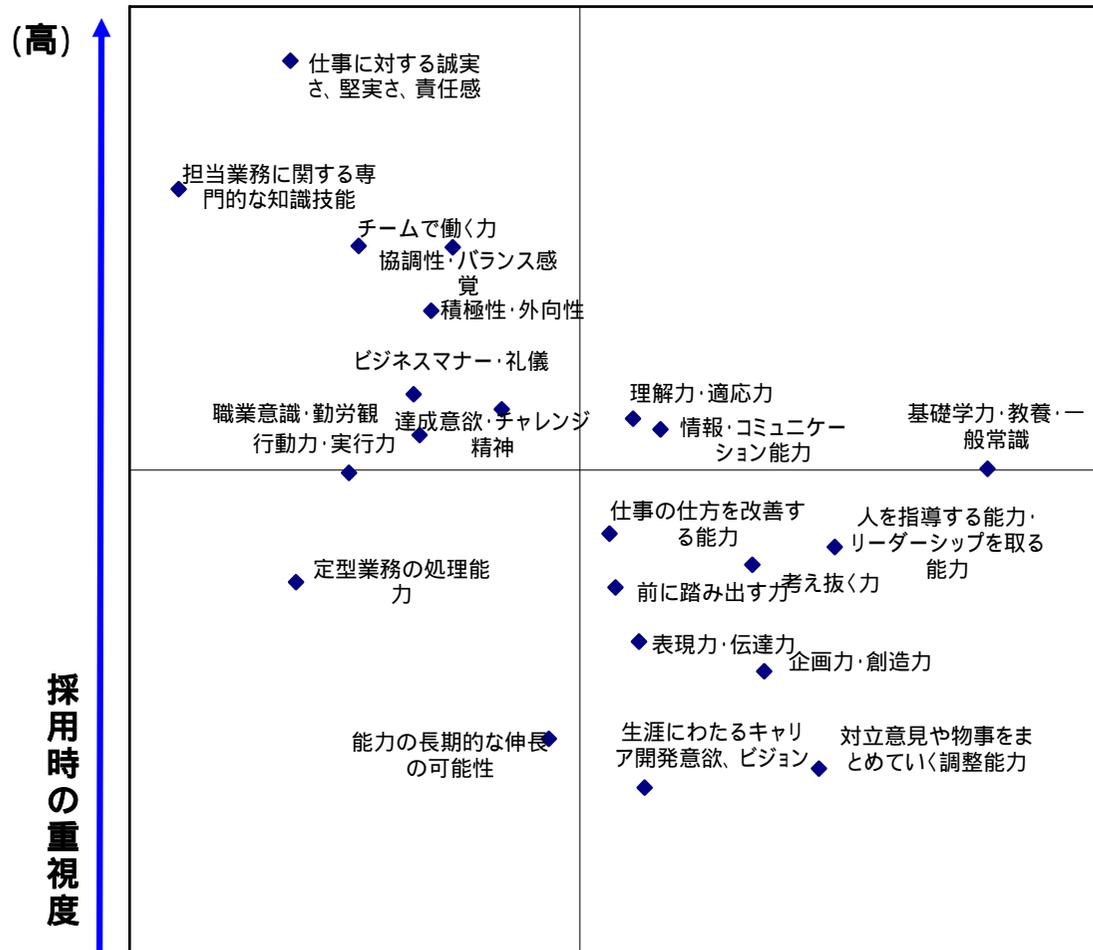
2) 高専卒業生アンケート調査（ネットサーベイ）

概要：高専卒業生の勤務状況、高専教育プログラムの有効性、今後の要望等について調査を実施。

回答数：556件

専門学校卒業生に対する評価

専門学校卒業生の職業能力については、「情報・コミュニケーション能力」、「理解力・適応力」等で大学卒との評価差が大きいほか、「仕事に対する誠実さ、堅実さ、責任感」、「チームで働く力」等が採用時に重視される傾向。

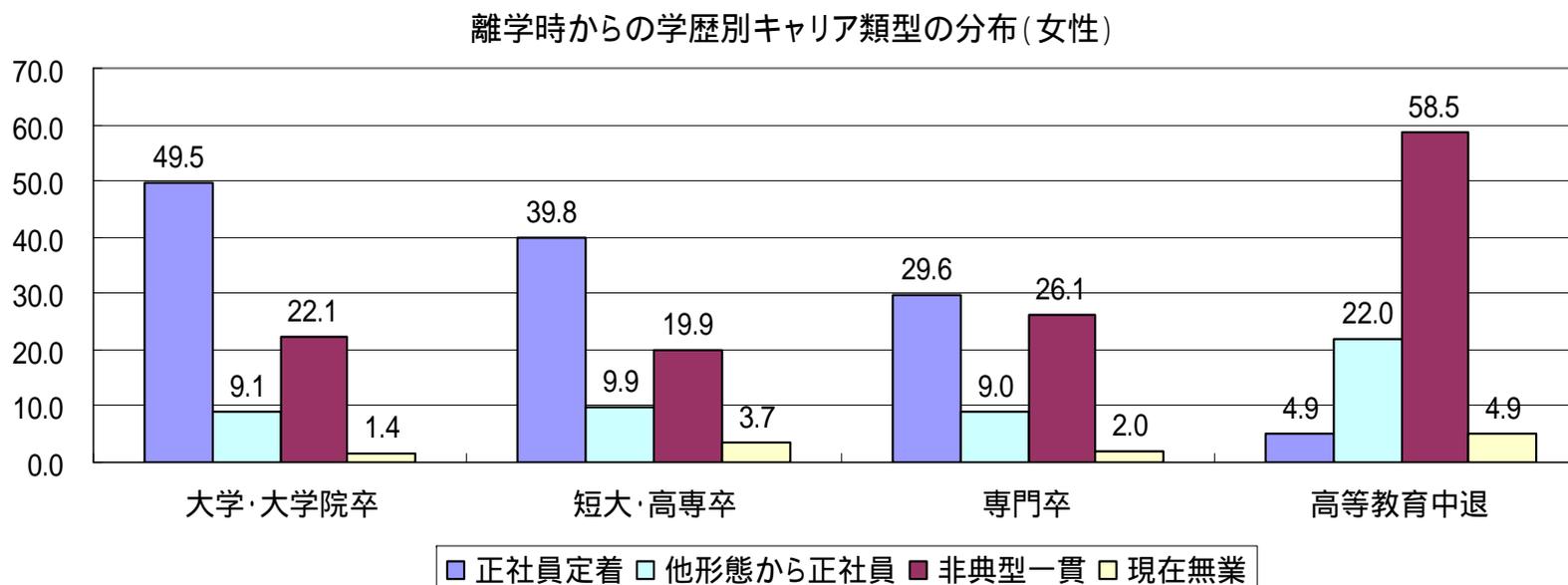
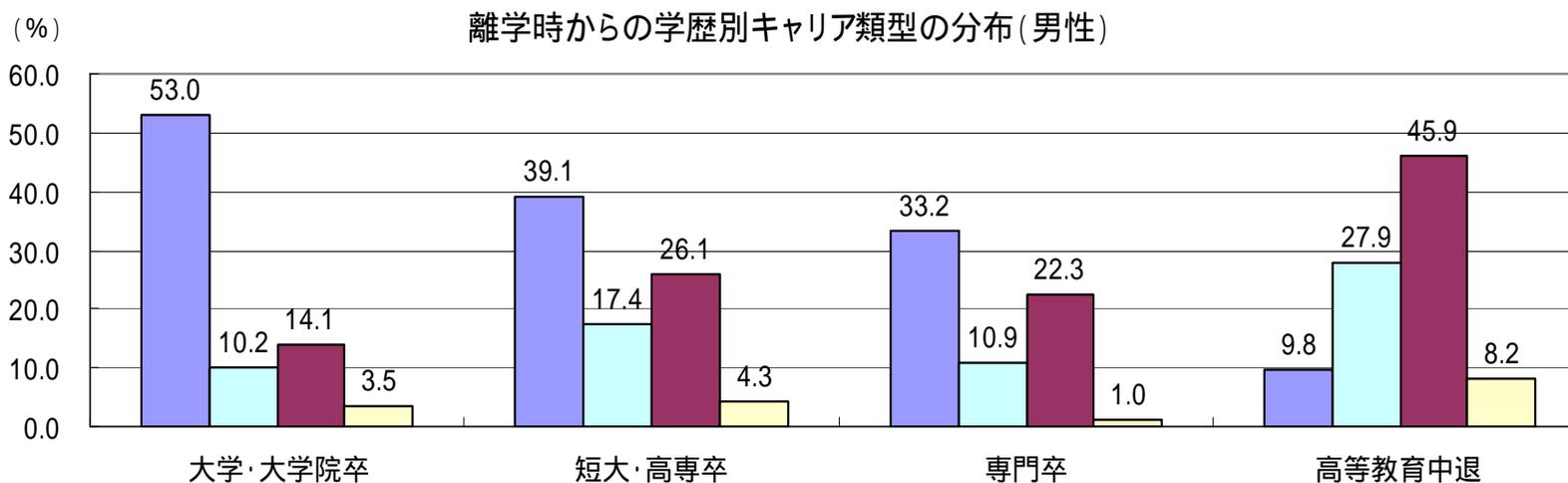


「大卒」と「専門学校卒」の能力評価の差

(大)

高等教育中退後の就業状態の類型

高等教育中退者は、離学後に継続的に非正規雇用としてのキャリアを歩む割合が男女ともに高くなっている。



(資料) 労働政策研究報告書 大都市の若者の就業行動と移行過程-包括的な移行支援に向けて-図表1-23から作成
 項目は離学時点から調査時点(2006年2月)までの就業経験により分類。
 調査対象: 東京都の18-29歳の若者計2000人(正規課程の学生、専業主婦を除く)

高等教育段階の中途退学者の現状

【中途退学者の状況(学校種別)平成20年度末(3月20日時点)】

理由	国立		公立		私立		高専		計	
	退学者数 (人)	構成比 (%)								
学業不振	654	9.3%	137	9.8%	5,565	14.0%	180	14.9%	6,536	13.2%
学校生活不適合	143	2.0%	77	5.5%	2,072	5.2%	67	5.6%	2,359	4.8%
経済的理由	624	8.9%	143	10.2%	6,944	17.5%	4	0.3%	7,715	15.6%
就職	1,406	20.1%	159	11.4%	4,851	12.2%	117	9.7%	6,533	13.2%
転学	786	11.2%	269	19.2%	5,616	14.1%	479	39.7%	7,150	14.5%
海外留学	60	0.9%	15	1.1%	216	0.5%	0	0.0%	291	0.6%
病気・けが・死亡	351	5.0%	111	7.9%	2,775	7.0%	35	2.9%	3,272	6.6%
その他	2,969	42.4%	507	36.3%	11,558	29.0%	325	26.9%	15,359	31.1%
合計	6,998	99.9%	1,398	101.4%	39,791	99.5%	1,207	100.0%	49,394	99.6%

【中途退学者の状況(学校種別)平成19年度末(3月31日時点)】

理由	国立		公立		私立		高専		計	
	退学者数 (人)	構成比 (%)								
学業不振	979	9.3%	168	9.6%	6,703	13.5%	220	13.5%	8,070	12.7%
学校生活不適合	239	2.3%	105	6.0%	2,761	5.6%	108	6.6%	3,213	5.1%
経済的理由	932	8.9%	169	9.7%	7,780	15.7%	12	0.7%	8,893	14.0%
就職	2,171	20.7%	230	13.2%	6,565	13.3%	168	10.3%	9,134	14.4%
転学	1,190	11.3%	338	19.4%	7,362	14.9%	574	35.3%	9,464	14.9%
海外留学	60	0.6%	17	1.0%	464	0.9%	3	0.2%	544	0.9%
病気・けが・死亡	451	4.3%	97	5.6%	3,293	6.6%	41	2.5%	3,882	6.1%
その他	4,483	42.6%	640	36.7%	14,335	28.9%	509	31.3%	19,987	31.5%
合計	10,512	99.9%	1,743	101.2%	49,541	99.4%	1,625	100.6%	63,421	99.6%

(資料)各大学等の授業料滞納や中退等の状況調査(平成21年3月20日時点及び平成20年3月31日時点)

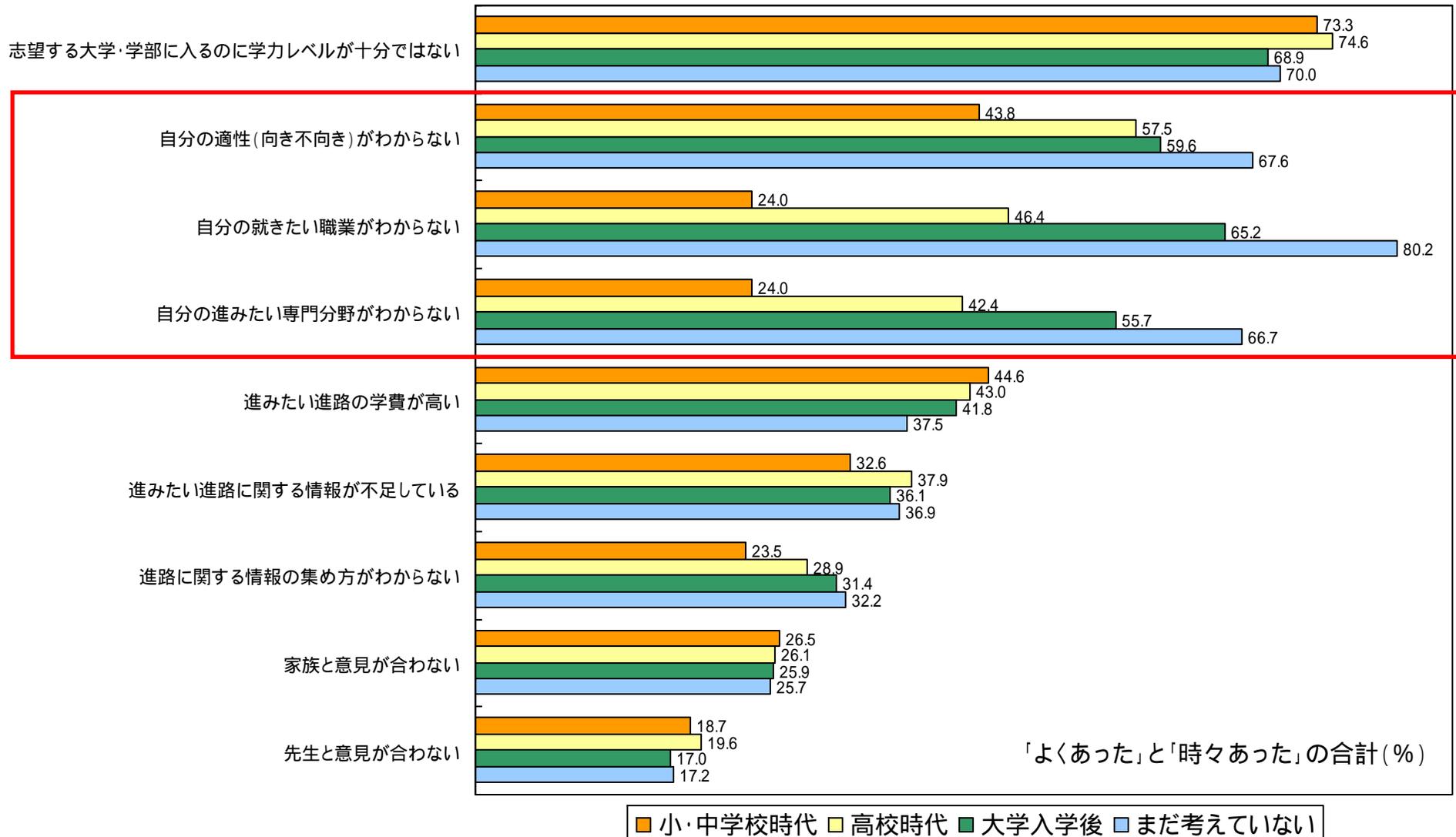
(1)調査対象:国・公・私立大学、公・私立短期大学、高等専門学校 1,225校

(2)有効回答:計1,148校(93.7%)

関連参考資料

進路を選択するときの悩み（職業を意識した時期別）

大学生に、高等学校時代に進路を選択したときの悩みを尋ねたところ、「自分の適性(向き不向き)がわからない」「就きたい職業がわからない」「進みたい専門分野がわからない」が多く存在。こうした傾向は、職業を意識した時期が遅いほど顕著に出ている。



最近の学生相談の内容

約8割の大学等が「対人関係(家族、友人、知人、異性関係)」に関する相談内容が増加していると回答。

